

第5章

ワーキンググループ活動報告

1 スタートアップ研修企画・運営チーム

(1) チーム概要

スタートアップ研修企画・運営チームは、「岡山県地域リハビリテーションリーダー育成・広域支援事業 研修会 市町村事業に参加協力するリハ職のスタートアップ研修」（以下、スタートアップ研修）の企画・運営を目的に平成 30(2018)年度に発足した。

スタートアップ研修は、市町村支援事業への協力に際して、地域支援事業、総合事業の必要性や、リハ職による支援の意義についての理解を深め、市町村支援のための知識を備えるものである。岡山県理学療法士会、岡山県作業療法士会、岡山県言語聴覚士会すべての会で、市町村支援の参加条件となっている研修会である（研修の概要、実績については第6章-1. を参照）。

平成 27(2015)年度から平成 29(2017)年度までの 3 年間は、長寿社会課とリハ団体連絡会が協働して研修の運営を行っていたが、より実践的な知識や情報を得ることを目的に、平成 30(2018)年度から市町村支援事業に協力しているリハ職を中心としたチームによる企画・運営が始まった。チーム構成は PT・OT・ST 各 1 名以上とし、年度ごとにメンバーの変更はあるものの、5 名前後で活動にあたっている。

(2) 活動報告

① 研修内容の決定

その年ごとに現在の課題を分析し、研修の目的を定め、規定に則ってプログラムおよび当日のスケジュールを決定する。予想される参加者の数や、交通手段、会場設備等について検討し、会場を決定する。

令和 2(2020)年度は COVID-19 の影響により、一つの会場に参加者を集めることが困難となったため、Zoom ウェビナーを使用したオンラインでの研修を開催することとなった。リハ団体連絡会としても初の試みであったが、当日のトラブルを回避するために、講義は事前に録画・撮影されたものを使用するなどの対応を行った。

② 講師の選定

市町村支援事業のしくみや地域包括支援センターの理解といったプログラムについては、制度面や自治体の方針、実情についての内容が必要になるため、例年、長寿社会課や県内各市町村の事業担当者に依頼をしている。

実際の活動事例報告として、県内各市町村で行われている取り組みを広く周知するために、市町村支援事業に協力しているリハ職にも講師を依頼している。活動報告のほかに、ファシリテーターとして、

地域ケア個別会議の模擬会議やグループディスカッションへの参加もお願いしている。

活動実績が徐々に増え始め、今後より多くのリハ職が事業に協力する機会が増えると予想された平成30(2018)年度と令和元(2019)年度は、他県で行われている先進的な取り組みを学ぶために、県外から講師を招いた(資料を第6章-2. に再録)。

活動開始から6年目を迎え、県内での市町村支援事業の事例が蓄積されてきたこともあり、令和2(2020)年度は、すべての講義において岡山県内で市町村支援事業に携わっているリハ職が講師を務めた。

③ 参加者の募集

スタートアップ研修の参加対象は、岡山県理学療法士会・岡山県作業療法士会・岡山県言語聴覚士会の各会員である。各職能団体のホームページやメーリングリストを利用し、広く参加者の募集を行っている。

平成30(2018)年度と令和元(2019)年度には、リハ団体連絡会の活動を周知する目的で、県内の市町村支援事業担当者にも参加募集を行った。

④ 研修当日の運営

会場設営や参加者の出欠確認、資料の配布、講師対応、トラブルへの対応等を行っている。

令和2(2020)年度については、当日の配信に加え、事前にZoomウェビナーの参加案内や、資料の配布(リハ団体連絡会のホームページよりダウンロード)などを行った。

⑤ 活動の総括

当日の運営についての振り返りや、アンケート結果をもとにした課題の抽出、次年度への引継ぎ等を行う。

令和2(2020)年度は、録画配信形式の講義であり、当日の質疑応答が困難であったため、参加者からの質問に対する回答を「Q&A」としてリハ団体連絡会のホームページに掲載した(研修参加者以外も閲覧可能)。

平成30(2018)年度から令和2(2020)年度までの振り返りと研修プログラムを【図表1～4】に示す。

【図表1】平成 30(2018)年度から令和 2(2020)年度までの振り返り

日程	平成 30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和 2(2020)年度
	H30.12.9 開催	R1.12.22 開催	R2.12.6 開催
課題	<p>スタートアップ研修は総論よりの内容となりやすく、市町村支援事業への参加に向けて、具体的にどのような活動が求められているのかがわかりにくい。</p> <p>市町村支援事業に、リハ職が参加し活躍するためには、まず現状で最も需要の高い地域ケア個別会議を中心に理解を深める必要がある。</p>	<p>医療機関に勤務していることもあり、地域リハビリテーションの概念(リハ職が地域にどのように関わるか)を具体的にイメージできないリハ職が多い。</p> <p>リハ職の知識や見解が、地域ケア個別会議を通して実際の生活場面にどうつながっていくかを理解できるようにする。</p> <p>ST の活用方法が明確になっておらず、派遣依頼数や協力可能な ST の数が少ない。人材の掘り起こしと他職種にも ST の活用方法について考える機会を持ってもらう必要がある。</p>	<p>市町村からの依頼が増えてきており、より多くのリハ職に事業参加を促す必要がある。</p> <p>県内各市町村で行われている具体的な活動を知り、どのような支援を行うかがイメージできるようにする。</p> <p>県内のリハ職間で、リハ団体連絡会の活動が周知されているとはいえず、活動に協力するリハ職が概ね固定されてしまっている。改めて事業内容について周知することで新たな人材の発掘を行う。</p>
目的	1) 地域において『地域ケア個別会議がなぜ必要であるか』を理解できる。	1) 地域において『地域ケア個別会議がなぜ必要であるか』を理解できる。	1) 市町村支援事業が必要とされる背景と目指すべき方向を理解できる。
	2) 地域ケア個別会議の『開催の経緯・目的・対象・内容・結果』を理解できる。	2) 地域リハビリテーションにおける多職種連携が理解できる。	2) リハ団体連絡会が発足した背景、組織、活動を理解できる。
	3) 地域ケア個別会議で、『リハ職に求められること』を理解できる。	3) 地域ケア個別会議で、『リハ職に求められること』を理解できる。	3) 地域支援事業の『目的・事業内容・対象・結果』を理解できる。
	4) 地域ケア個別会議への参加に向けて、どのような研鑽が必要で、どう活動することが望ましいかを理解できる。	4) ディスカッションを通して地域支援事業の具体的な内容を理解できる。	4) 市町村支援事業で、『リハ職に求められていること』『各リハ職の役割』を理解し、どのような活動が望ましいかを理解する。
参加人数	PT:41 名	PT:38 名	PT:25 名
	OT:61 名	OT:15 名	OT:18 名
	ST:4 名	ST:7 名	ST:4 名
	市町村:22 名	市町村:6 名	
	合計 128 名	合計 66 名	合計 47 名

【図表2】平成30(2018)年度の研修プログラム

市町村を支援するために 地域包括ケアシステム、地域支援事業と地域包括支援センター業務の理解	岡山県 長寿社会課
住民運営の通いの場の意義と普及展開	井原市 地域包括支援センター
地域ケア個別会議でリハ職に何が求められるか 地域ケア個別会議の実際と成果	県外講師(大分県OT)
高齢者の自立支援の実際 地域包括支援センターの同行訪問と地域ケア個別会議の連動を考える 市町村支援事業なんでも質問・相談	吉備中央町 福祉課 県内各市町村で支援を行っているリハ職

【図表3】令和元(2019)年度の研修プログラム

市町村を支援するために 地域包括ケアシステム、地域支援事業と地域包括支援センター業務の理解	岡山県 長寿社会課
地域リハビリテーションと言語聴覚士	県外講師(栃木県ST)
地域通いの場～通所付添サポート事業を含めて～	備前市 地域包括支援センター
地域ケア個別会議と同行訪問について(市町村の取り組みを含めて) グループディスカッション	県内各市町村で支援を行っているリハ職

【図表4】 令和 2(2020)年度の研修プログラム

総合事業、地域支援事業が必要となった背景と目指すべき方向性 地域包括ケアシステム/地域支援事業/総合事業の理解	岡山県 長寿社会課
岡山県リハビリテーション専門職団体の役割と概要	リハ団体連絡会 会長
岡山県リハビリテーション専門職団体派遣実績報告・派遣手順説明	リハ団体連絡会 事務局
地域ケア個別会議の概要 同行訪問の概要 研修講師（住民運営通いの場/サロン支援）の概要 通所支援の概要 通所付添サポート事業&介護予防交流フォーラムの概要（県事業協力） 市町村支援事業における言語聴覚士の役割と活躍	県内各市町村で支援を行っているリハ職

(3)課題と展望

県内各市町村からのリハ職派遣依頼数は年々増えてきているが、対応できるリハ職の実数はまだ十分とは言えない状況である。もともと地域にリハ職が少ない市町村もあり、需要と供給を合わせていくためには、新しい人材の発掘や、広域で活躍できる人材を育成していく必要があると考える。

また、スタートアップ研修は、市町村支援事業に協力するための初期研修に位置付けられていることもあり、年度ごとの受講者の推移は概ね落ち着いてきている。しかしながら、市町村支援事業に関する制度は適宜細かい修正が加えられており、常に新しい知見を得ておく必要がある。そのため、スタートアップ研修の受講を修了し、すでに市町村支援事業に参加協力しているリハ職にも、ブラッシュアップを目的とした研修への参加を促していきたい。

令和 2(2020)年度は COVID-19 の影響もあり、これまでの研修開催方法を大きく見直すきっかけとなった一年であった。これまでは会場の都合等、県南部での開催になり、県北部からの参加が難しいという課題があった。オンライン開催という手段を得たことで、県内どの地域からでも容易に参加することが可能になった。今後、より広範囲に事業協力が行えるリハ職が増えていくことを期待している。

また、開催時期や開催回数についても検討が必要である。例年、年 1 回、12 月の開催となっている。時期的に年末ということもあり、1 日の拘束時間を考えると参加しにくいといった声も聞かれている。今後、講義には動画を活用する等、年に数回の研修開催や、オンデマンドでの研修開催など、より多くのリハ職が参加できる方法を考えていきたい。

2 医療情報検討チーム

(1) チーム概要

① はじめに

地域リハビリテーション活動支援事業は、平成 26(2014)年に改正された地域支援事業の一般介護予防事業の 1 つである。介護予防の取り組みを機能強化するため、通所支援、同行訪問、地域ケア会議、住民運営の通いの場等へのリハ職による助言等を実施することとなっている。地域ケア会議の“個別課題の解決”では、自立支援に資するケアマネジメントとサービス提供の最適化や参加者の資質向上と関係職種との連携促進を目的に、支援困難事例等に関する相談・助言を行う地域ケア個別会議があり、県内各市町村の依頼を受け、リハ団体連絡会が派遣調整を行っている。

② 活動の背景

支援困難事例の検討を行う地域ケア個別会議では、リハ職が自立支援に資する助言をするために、アセスメントシート等を参考に生活状況の把握をしているが、一方でより有益な助言をするために、身体の状態を把握できる医療情報が不足しているという課題があがっていた。

平成 30(2018)年、この課題を解決すべく、長寿社会課より医療情報を収集するシートの作成が提案された。県は県医師会や市町村との調整役、市町村は郡市医師会との調整役として、シートの使用を調整し、将来的にかかりつけ医からの情報収集、かかりつけ医への報告といった双方向のやりとりができれば、医療介護連携の促進や、医師会等とリハ団体連絡会との関係が深まるとの意図もあった。

③ チーム構成

リハ団体連絡会会員である PT、OT、ST 各 2 名で構成され、シート作成過程の後半は岡山市所属の PT の協力も得られた。

(2) 活動報告

① 目的

活動にあたって「地域ケア個別会議にリハ職が関与し、自立支援に向けた検討をするにあたり必要な医学情報を割り出すこと。それを医療情報提供シートとしてまとめること」を目的とした。

② 計画

シートの検討を開始するにあたり、完成したシートの運用方法としては、事例検討の担当ケアマネを

通し、医師等から情報聴取するという形を目指し、以下の計画とした。

1. 介護認定の要因となった疾患の洗い出し:要支援者、事業対象者の典型的な疾患を列挙
2. 各疾患に共通する「収集すべき医療情報」の集約と疾患ごとに特有な情報の検討
3. 試行および意見聴取

③ 活動経過

1. 介護認定の要因となった疾患の洗い出し

過去の事例データより、以下の疾患が洗い出された。

運動器疾患:腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折、リウマチ、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症

脳血管疾患:脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、パーキンソン病、認知症

内部障害:心不全、心臓弁膜症、心房細動、高血圧症、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、糖尿病、慢性腎不全

2. 各疾患に共通する「収集すべき医療情報」の集約と疾患ごとに特有な情報の検討

各疾患の主症状を挙げ、その症状の共通事項を最大公約数的に選別した。また疾患ごとに特有の情報も検討した。

- ・共通事項:手術の有無、血圧、不整脈、禁忌肢位、呼吸困難の有無、動脈瘤の有無、意識障害を伴う病態の有無、薬剤に関する留意すべき副作用、水分摂取制限の有無、精神症状の有無
- ・運動器疾患:脊椎・脊髄疾患髄節レベル、コルセットの必要性、変形関節症・リウマチ 重症度
- ・脳神経・血管疾患:脳卒中部位、パーキンソン病 on-off 症状の有無、認知症

3. 試行および意見聴取

上記をまとめ、仮のシートを作成した。岡山市所属のリハ職の協力をいただき、地域包括支援センターの有志のケアマネに対し、シート試行および意見聴取を行った。それぞれからあがった意見としては、「医療的知識の乏しいケアマネの場合、診断名の優先順位、手術の重要度の判断や、症状と疾患とを結びつけて記載するのは困難ではないか。また薬剤に関する情報も難しいのではないか」という意見が大半を占めた。また、「医師からの聞き取りを必須とすると、ハードルが非常に高く、活用できなくなるのではないか。また そのままの内容を医師に問うことになり、リハビリの知識に長けた医師でなければ、返答にも困るのではないか」という意見があがった。その他、「シートの記載内容について何を意図していて、どんな情報が欲しいのか説明が必要」という意見もあった。

これらの意見を踏まえ、シート作成に関する説明書「医療情報提供シートの活用について」【図表1】を作成し、シートの修正も行き、現時点での「岡山版医療情報シート」が完成した。【図表2】

【図表1】 医療情報提供シートの活用について

医療情報提供シートの活用について

目的:

リハビリテーション専門職が適切な助言を行う上で、リスク管理の為の情報不足を感じています。リスク管理の情報はその程度等により、疾患の状態推測や予後予測、生活動作の指導等にも活用できます。疾患によって欲しい情報は異なりますが、多すぎる項目はケアマネジャーさんに大きな負担がかかることを考え、専門職で話し合っ3つの項目に絞りました。

ケアマネジャーさんには、利用者さんから記載項目の聞き取りと、主治医から該当する項目のさらに詳細な情報を得て頂きたいのです。主治医への情報確認が難しいケースも考えられるので、可能な範囲での情報収集をお願いします。

各項目についての説明:

①多くの人工関節は、関節を曲げる角度に制限ができます(制限された角度以上に曲げると、人工関節の脱臼等が生じ、再度手術を行う必要があります)。病院等では脱臼や異常な摩擦が生じない、日常生活の動作指導や環境設定を行い、脱臼の予防を図っています。また脱臼予防の指導内容は部位や手術方法等によっても異なります。また、その他手術についても、疾患の状況等や心身機能の推測にもつながります。そこで、利用者さんからどんな手術を受けられたか、手術後にどんなことに注意するように病院から指示があったかの聞き取りをお願いします。

利用者さんによっては、複数の手術を受けられているケースもあります。その場合には、利用者さんからの聞き取りの中で、「生活に不便を感じられるようになった」と感じられた手術及びそれ以降の手術を記載するようにしてください。

②機能改善効果を高める為には、適切な負荷をかけることが重要ですが、低すぎる負荷では効果が得られず、高すぎる負荷は疾患を悪化させる可能性があります。特に心疾患や肺疾患は運動による影響を受けやすく、その把握は不可欠です。

そこで、使用者さんからどんな場面で「動悸」「息切れ」「胸部痛」が生じるかの聞き取りをお願いします

また、利用者さん、もしくは主治医からの聞き取りで、運動負荷の指標となる、代表的な項目「血圧」「脈拍」「酸素飽和度」等が分かれば助かります。これは運動負荷の設定にも役立ちます。

③身体機能に問題が無い場合でも、意識消失があると転倒といった事故につながります。意識消失が生じる原因は様々(脳疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病等)です。事故を防ぐために、日常生活の活動制限や環境調整を行う必要もあります。状況によっては、意識消失を防ぐためのアドバイスも可能ですので、利用者さんから「どんな時に意識消失が生じるか」等の聞き取りも宜しくをお願いします。主治医へは、「〇〇の症状についての、原因の確認やその予後について」の聞き取りをお願いします。

その他「薬に関する留意すべき内容」「特記事項」については、特に利用者さんが生活場面で留意していることがあれば記載をお願いします。

主治医へ聞き取る内容は、利用者さんからの「どんな時に、どんな症状が現れると聞いたが、リハビリ等を行う際に注意することがあるか」「〇〇との診断名があるが、現在の疾患の状況とその予後」「リハビリや普段の生活で気をつけること」等になります。

これらの情報は、運動の処方や生活指導に重要な内容となりますので、通所や訪問事業所のセラピスト等とも情報を共有して頂ければ、より有益な助言や質の高い機能訓練にも活用できます。ケアマネジャーさんにはお手数をおかけしますが、ご協力を宜しくお願いします。

(3) 課題と展望

上記の経過を経て、医療情報提供シートは完成したが、今後各市町村の協力を得て、更なるブラッシュアップをしていく必要がある。ただし、展開については関係各所の協力を仰ぎ慎重にすすめていく形が望ましい。そのためにはケアマネを中心とした、地域ケア個別会議を構成する方々の理解を得ることが大きな鍵になると思われる。

参考 URL

1. 厚生労働省 HP 地域ケア会議の概要、専門職の効果的・効率的な関与の具体的方策について
<https://www.mhlw.go.jp/index.html>
2. 岡山市 HP 総合事業の概要 <https://www.city.okayama.jp/>

3 専用サイト運用チーム

(1) チーム概要

専用サイト運用チームはリハ団体連絡会の具体的な活動内容について、リハ職、市町村担当者、市民に対して広報することを目的に、令和元(2019)年7月に発足した。現在のチームメンバーはOT4名で構成されている。チームの結成から期間が短く、COVID-19の影響も受けたため、少しずつ活動を進めている状況にある。

チームの主な活動としては、リハ団体連絡会のホームページ【図表1】の更新および変更を行っている。トップページには、「TOP MENU」・「ご挨拶・団体概要」・「活動内容」・「リハ専門職の皆様へ」の4つの項目を配置している。また、トップページの下部には「NEWS & INFORMATION」として、研修会の案内など最新情報を随時掲載している。

【図表1】 ホームページトップページ



(2) ホームページの紹介

① TOP MENU

PT、OT、STの各専門職の役割が簡潔に紹介され、リハ団体連絡会の研修会をはじめとした各種情報が掲載されている。

② ご挨拶・団体概要

会長挨拶およびリハ団体連絡会の役割が掲載されている。また、リハ団体連絡会の事業実施体制が掲載されており、各チームの構成が一目でわかるようになっている。

③ 活動内容

リハ団体連絡会の設立の目的、事業目的、事業計画が掲載されている。

④ リハ専門職の皆様へ

本ページはパスワードロックがかかっており、ユーザー名とパスワードによるログインが必要となっている。ユーザー名とパスワードは、リハ団体連絡会会員所属施設に郵送にて送付している。

本ページには市町村の地域支援事業への参加募集が四半期ごとに掲載されており、派遣希望先をクリックすると派遣申し込みができるようになっている。【図表2】

【図表2】 派遣者募集の案内

派遣

令和2年度 市町村事業支援について (2020年10月16日更新)

令和2年度の市町村の派遣希望日は、下表から各市町村のページをご確認ください。
 参加のお申し込みは、各市町村ページの下部にある申し込みフォームに、
 参加希望日(実施日)、氏名、所属先、所属先の施設所在地、職種、電話番号、メールアドレスを入力してお申し込みください。

*表の日にちをクリックすると、フォームの実施日に日付が入力されます。
 *同一市町村で複数の日程の参加を希望する場合や、参加を希望する市町村の事業が「日程未定」の場合は、「備考欄」に活動のしやすい曜日、時間帯、期間等をご記入ください。
 *「実施日」に日付以外の文字や文章等を入力すると市町村名が消えるエラーが発生しております。
 お手数ですが、活動しやすい曜日等は「備考欄」にご記入ください。

***第4四半期の参加申し込みを締め切りました(現在派遣調整中)**
 お申込みありがとうございました。

第4四半期(1月~3月)の参加申し込みは、令和2年10月31日(土)締め切りです。
 エントリーが多数の場合は、期日より早めに締め切る場合があります。
 入力いただいた情報をもとに派遣先・派遣日を確定し、事務局からエントリーした会員の方に結果をお知らせいたします。
 引き続きよろしく願いいたします。
 また、第1四半期~第3四半期の市町村事業に参加した方は、活動登録フォームから活動内容をお知らせください。
 (初回は振込先も必ずご入力ください)

備前ブロック	玉野市	備前市	瀬戸内市	吉備中央町	
備中南ブロック	倉敷市	笠岡市	浅口市	早島町	里庄町
備中北ブロック	総社市	高梁市	新見市		
美作ブロック	津山市	真庭市	美作市	久米南町	美咲町

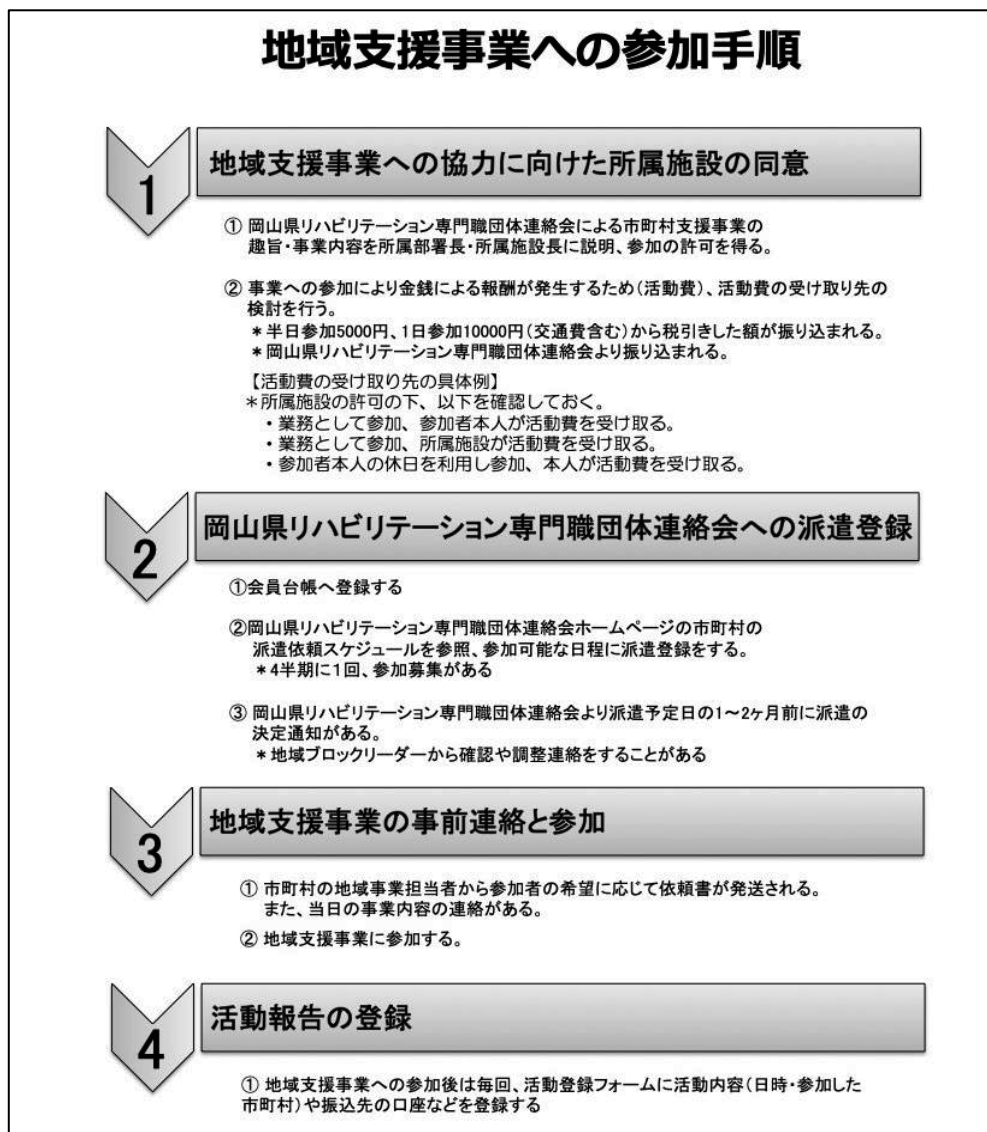
また、派遣活動に必要な「会員台帳登録フォーム」や「活動登録フォーム」が入力できるようになっている。加えてリハ団体連絡会の活動状況が把握できるように過去の会議の議事録を掲載している。

(3)活動報告

① ホームページの変更作業

ホームページの変更作業として、まずは、リハ職に対して地域リハビリテーション活動支援事業を知ってもらい、参加協力者を増やすための情報提供に取り組んでいる。リハ団体連絡会の取り組みが岡山県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会の会員に十分周知されておらず、会員の多くが地域リハビリテーション活動支援事業への参加手順を把握していない現状があったため、地域支援事業への参加手順を作成し、「リハ専門職の皆様へ」のページに掲載している。【図表3】

【図表3】 地域支援事業への参加手順



なお、各職能団体によって地域支援事業への派遣条件が異なっている点に注意が必要である。【図表4】

【図表4】岡山県各職能団体における地域支援事業への派遣条件

	作業療法士会	理学療法士会	言語聴覚士会
絶対条件	①リハ団体連絡会のスタートアップ研修を修了 ②生活行為向上マネジメント実践者修了 ③作業療法士会理事会推薦 *①、②を修了していない場合は要問い合わせ	①リハ団体連絡会のスタートアップ研修を修了	
望ましい条件	④OT 地域包括ケア導入研修受講者 ⑤OT 地域包括ケア基礎研修受講者 ⑥OT 地域包括ケア応用研修受講者	②介護予防推進リーダー取得者 ③地域包括ケア推進リーダー取得者	特になし

② ホームページの更新作業

リハ団体連絡会の最新情報について、事務局と連携を取りながら「NEWS & INFORMATION」を中心に随時更新を行っている。

(4)今後の展望、課題

今後は、リハ団体連絡会の主な活動である地域リハビリテーション活動支援事業(通所支援、同行訪問、地域ケア個別会議、研修講師等)について具体的な取り組みの様子を紹介する予定としている。また、県から協力依頼がある事業として、介護予防交流フォーラム、通所付添サポーター養成講習の紹介資料も掲載し、多くの会員に関心を持ってもらい、活動へ参加してもらえるよう情報提供を行っていく。

市町村担当者や市民に向けての情報発信についてはまだ不十分であるため、引き続き、ホームページの変更・更新作業を継続していく。

また、現在、ホームページのアクセス数が不明であり、どのくらいの人数が閲覧したかわからない状況となっている。そのため、ホームページへのアクセス数を測定し、経過を調査する等、ホームページの変更・更新作業の効果を検証することが必要であると考えている。

4 ST 活用提案チーム

(1) チーム概要

ST 活用提案チームは、市町村支援事業において ST の派遣依頼が少ないことや、事業に協力している ST の数が少ないといった課題に対応するため、令和元(2019)年度に発足した。チームリーダーを含め 4 名の ST で構成され、各ブロックの ST リーダーが協力する形で活動を行っている。

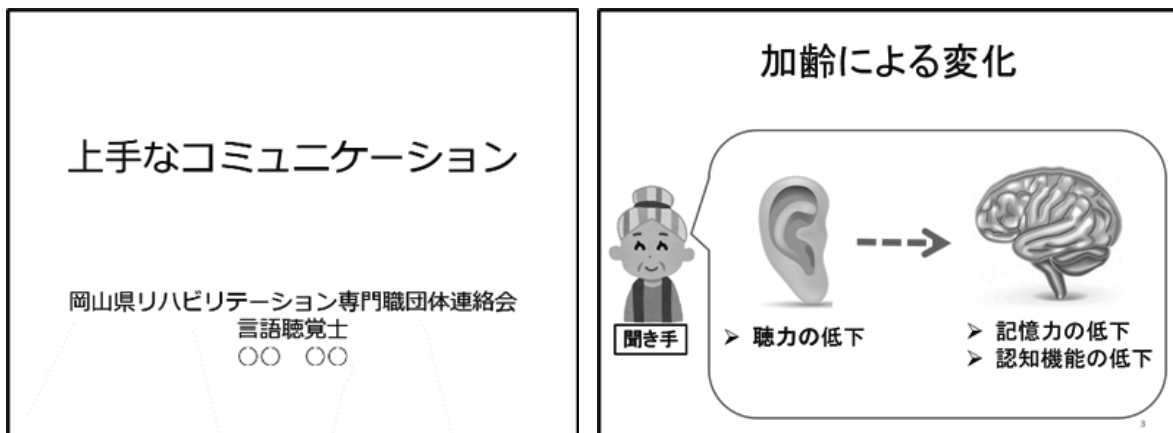
チームの活動目的は、ST および ST が対象とする領域について各市町村に訴求を行い、市町村支援事業における ST の活用方法を提案することで、派遣依頼の増加につなげていくことである。また、事業に協力する ST の人的確保、質の担保についても、その役割を担っていくことが求められている。

(2) 活動報告

活動開始当初は、県内各市町村に対し ST の認知度調査を行うといった案も上がったが、現在のところ実施はできていない。団体の活動が 6 年目を迎える中、徐々に派遣依頼数も増えてきており、ST の認知度については向上の兆しがみられていると思われる。

現在は、市町村からの ST 派遣依頼として研修講師の件数が最も多いことから、共通資料の作成を主な活動としている。研修の質や内容を統一できるように、市町村支援に参加する ST が共通して使用できる資料を作成中である。「聴こえ」、「摂食嚥下(食べること)」、「コミュニケーション(失語症・高次脳機能障害・構音障害等)」などの資料を順次作成していく予定である。県事業である通所付添サポーター養成講習では、すでに ST の講義時に共通資料を使用している。【図表1】。

【図表1】 通所付添サポーター養成講習で使用している共通資料(抜粋)



(3)課題と展望

市町村支援事業における ST の課題としては、第一に、PT・OT に比べると派遣依頼が少ない点が挙げられる。また、実際に支援事業に参加した ST から「言語聴覚士の知名度の低さを実感した」といった声もあり、未だ地域においては、ST の認知度は低く、その役割や活動領域の不明確さがあると考えられる。しかし、「知名度が低い分、新たに開拓していく面白さがそこにあるように感じた」、「ST の職域を知ってもらうことで、意外とニーズや求められることが多いと感じた」といった前向きな意見も聞かれている。各ブロックリーダー・サブリーダーの中には必ず ST が配置されているため、今後、地域連絡会やブロックでの研修時に ST の活動報告を行っていくことで、更なる認知度の向上に努めていきたい。

二つ目の課題として、市町村支援事業に協力する ST が少ない、質の担保ができていないといった点が挙げられる。令和 2(2020)年度をみると、4 市町村 49 件の派遣依頼に対し、4 名の ST で対応しているという状況である(令和 2(2020)年 12 月時点)。徐々にではあるが、ST への派遣依頼が増えてきており、これからもその傾向は続くと予想される。今後、市町村支援が行える ST を増やしていくために、県内の ST を対象に市町村支援や地域支援の研修を開催する等、岡山県言語聴覚士会との協力体制を整えていきたい。

